

筑後船小屋駅の 現状と問題点は

北島 一雄 議員

答 周辺整備による 乗降客数増加を期待



満車状態の「筑後船小屋駅」駐車場

問 JRより新幹線筑後船小屋駅の1日乗降客数が650人と発表されたが。

市長 公園内施設等を整備することによって、利用者が増えると期待している。

商工観光課長 乗降客数については、市でも独自に調査を行った。平日767人、日曜日941人とJR発表の数字を上回った。在来駅では、平日746人、日曜日

540人だった。

駅西側に駐車場を 拡張

問 多くの市民から筑後船小屋駅の駐車場が満車で停められないと不満の声を聞くが、対策を考えているか。

都市対策課長 駅開業に併せて都市計画施設として157台の駐車場を整備した。利用者の増加に伴う駐車場の需要等については、民間による整備を一定期待していた。現在、筑後船小屋駅の西側に100〜150台規模の駐車場を計画している。整備完了までには1年半程度かかると考えている。

問 駐車場不足の現状を放置するのか。

都市対策課長 駐車場不足を解消する一時的施策も今後検討が必要ではないかと考える。

羽犬塚駅前整備拠点イメージ
(平成5年商工会議所作成資料より)



人口減少社会への 対応策は

大藪 健介 議員

問 空き家、空き地対策への取り組みは。

市長 定住促進プロジェクトワーキング会議を設立し、定住人口を増やす政策の検討を始める。

問 行政区ごとの空き家の実態調査を。

企画財政課長 空き家の情報を把握し、どのような

な空き家なのか細かい情報を集め、希望されるニーズに合った、データベースを作ることから始める。

問 空き家活用の取り組みは。

企画財政課長 筑後地域への移住に関心のある、都市部ファミリー層世帯

答 筑後暮らし体験を実施 定住者増の取り組みへ

を対象に、筑後暮らし体験事業を実施している。

問 その結果は。

企画財政課長 2組の家族が体験され、環境が良くて大変喜ばれ、ぜひまた来たいという感想だった。

羽犬塚駅前 空き店舗対策は

問 羽犬塚駅前は、筑後市の玄関口である。筑後市の顔としての開発を。

都市対策課長 自由通路、駅前ロータリーなど、様々な整備を実施している。

問 駅前に人が集まるような、核となる施設を。

市長 地元の商店街、商工会議所と協議し、今後どのような施設を整備すべきか議論していきたい。